

神 示

「教え」に気付きを得て

「実体」の修正に心使うほど悟り

人は皆 奉仕に「生きる」心人間が引き出される

「人生」あるべき心姿が見えてきて

ますます「道の真理」が心人生の支えとなる

多くの出会いに引き上げられ

時に支えられ 見守られ

生きがい多い人生を歩んでゆける

信者に問う

「得徳」えとくの心が分かっていようか

「教え」に生きる努力を重ねる

自然と

「人生」を導き守る 「運命」の力が存在することが

感じ取れるはず

その時 人間は皆 神の存在を理解できる

同時に

「心の道」に生かされる 我が「人生の真実」も分かる

「神」と「仏」と「人間」と

三つの世界が重なり 回る

この世の仕組みが悟れて

いよいよ人間は 「得徳」の心に生きられる

極楽の世界が ここにある

祈願祭の神示を軸に学びを重ね、八月までで年間課題はほぼ消化。毎年九月の主題は「得徳」です。得徳とは、教えに沿った品性の高い生き方です。そのような生き方ができる自分になって、光寿信者参拝時に神魂にご報告するのです。

日頃から教えに触れ、さまざまな気付きが得られたなら、生き方を改めよう、品性を高めていこうと、努めることが大切です。その心があれば、実体が抑えられ、持てる力を奉仕の心で生かせます。そこに、人としてあるべき心に近づいていきます。人の心も大切にします。物にも愛着を持つでしょう。道理にかなう生き方ができてきます。飛び交う情報に惑わされることもなく、自身の貫くべき生き方がつかめてきます。

結果、誰とも良好な関係が保て、さまざまな縁に支えられて、持って生まれた運命の下、多くの人々の役に立てます。人から喜ばれ、生きがいがあふれてきます。そのような自分を目指すのです。

教えに沿って生きることが信念となれ

ば、常に心は安定しています。周りの言動に心が揺さぶられることもないでしょう。人のえり好みなどせず、誰にも優しくでき、周りからも優しくしてもらえます。心の軸に教えがあれば、感情の起伏など実体に流されることもなく、自然と運命に重なる毎日が送れます。

教えに生きて品性が高まることで、徳がかないます。多くの人の役に立てるので、徳が積まれていきます。そして、毎日の実に穏やかな生活に、神の絶大なご守護を感じるでしょう。

同時に、親、先祖からつながる心の道に、今生かされている尊さも認識できるでしょう。人は、一人の力で生まれるものではありません。ですから、神に、先祖に、感謝を忘れてはならないのです。

神と仏と人の世界が重なり、回るこの世の仕組みが悟れてこそ、報恩の思いで得徳の心に生きられます。品性が高く、与えられた運命に重なる生き方ができます。そこに、この世に生きる極楽が味わえると、神はお教えくださっています。

令和2年9月15日 信者心の道勉強会

神 示

神魂の時代を 人類は今生きて今日いる

この真実を 信者は心底悟っていようか

悟れし者信者は

「教え」に気付きを得て

「運命」が導く「人生」を歩み始めている

学びが薄く 「教え」の価値真実が分からぬ人信者は

知識と体験で教会を見るゆえ

「真理」が見えないでいる

「真理」なき知識は

時代の流れ変化にのみ込まれ 消えてゆく

我自分の目標

求め 努力した成果も残らない

人生に夢が持てず 悩み 苦しむ人の姿人々が

ここにある

信者は 「教え」に悟りを深め

「道の真理」に生きる努力をする

その努力は

一人一人の運命の力を引き出す

信者は 「教え」を学び

「真理」で社会を見詰める努力をする

その努力は

一人一人の実体を修正する

神の存在を心に感じ 「道」を守る人人間は皆

「得徳えとく」の心に悟り人全が届き 「開運」かなう

救いの道が確立した今を、神は神魂の時代と表されています。それは、道を守れば光みちが通る時代です。神の教えの神、仏、人の道を守って暮らせば、希望の光みちが通って、必ず救われるのです。

その価値が分かれば、教えを基に実体を修正し、運命に重なる生き方ができるようになり努力するでしょう。そして、与えられた力を無にすることのない、充実した毎日が送れるはずです。

ところが、そのことに気付かず、思いどおりにならないと、不満を漏らし、人を批判し、周りとは衝突するような人もいます。それは、学びが薄く、教えに生きる意義がつかめず、知識や体験ばかりに頼るからです。

真理、物事の道理から外れた知識は、時の流れ、変化とともに、必ず消え去っていきます。どれほど大国であっても、時代の変化にのみ込まれ、消えていった事実は、人類の歴史を見れば明らかです。

知識も、権力も、絶対なものなどありません。道理にかなうものこそ、確実に求め、努力した成果が得られないと、嘆く結果になってしまいます。

教えに触れて、そこから気付くだけでなく、悟りに返し、自分のものにすることです。教えに沿って生きる姿勢を、自身の信念に据えるのです。

その努力を重ねるところに、運命が引き出されます。教えに生きると、自然と運命の力に守られるのです。言い換えれば、運命どおりの仕合せな人生を歩める人は、品性が高いものなのです。

ですから、道の真理に生きられるように、精いっぱい努力することです。道の真理とは、神、仏、人の道です。道を守る努力をしていれば、分、器に合った生き方ができてきます。

まず実体が抑えられ、修正されていきます。教えが考え方の根底にあり、知識に振り回されず、素直で、正直で、誠実な、見守れる人になれます。そのような品性の高い得徳えとくのかなう自分になることが、開運にはどうしても必要なのです。

令和2年9月23日 神魂誕生記念祭

神 示

神魂の時代に「生きる」 心の悟りとは何か

分かっていようか

なぜに 神は「真理」を世に表しているのか

「真理」を家族で学ぶことを教えるのか

分かるかや

今の社会 人の姿を見てごらん

心不安に迷い 将来の姿におびえ

人生の支えが持てずにいる

神魂の時代を迎え 今 人類は

神を感じ 「心」を預けて「生きる」

真実「真理」を悟る心が必要

「真理」に気付きを得ること 人間は 心の姿が変わる

家庭が築く「心の道」が見えてきて

「真理」が「人生」の支えと成ってゆく

「真理」に悟りを深める人の心は 明るく 強い

時代の力に逆らわず 時代の流れに乗って生きられる

運命に導かれて「人生」歩む 人の姿が ここにある

家族で「教え」を学ぶほど

家族の心は重なりを深め

真実の愛で「心の道」を

太く 強くつないでゆける

「希望の光」を通す心の悟り——導神

神を心の支えに「生きる」心の悟り——心導

——得徳の心が人の心を高くする——

家族で「真理」に生きる 和のある家庭を築く

時代の姿を悟るべし

神魂誕生記念祭に当たり、神は信者として気付くべきことを次々と示されました。それは、神魂の時代に生きる心のありようです。なぜ神は世に真理を表されているのか、なぜ教えを家族で学ぶように促されているか、その重みがかかっているかと問いつけられました。

神魂の時代は、道を守って暮らしたなら、希望の光が通って、運命に重なる人生が歩めます。そうした生き方ができるように、教主正使者供丸光先生を通して次々と神示が表されています。その神示に家族そろって触れていけば、心が重なり、和のある平穏な毎日が送れます。

社会には、将来が見えず、不安におびえて暮らす人々がたくさんいます。それは、心を支えるものがなく、不安定な知識や情報ばかりに頼るからです。

社会の風潮に流されず、確かな生き方をするには、神魂に心を預け、教えのとおり生きる努力を重ねることです。それができれば、日々の心の動きが変わってきます。物事の受け止め方、感じ方、

考え方が変わります。

教えを基に物事を見立てることができるようになれば、生き方が高まり、さまざまな人との関わりも深くなります。家族につながる心の道の重要さも見え、軸の通った人生が完成していきます。

教えに生きる価値がつかめた人は、常に心が明るく、強く、時代の力に逆らわず、流れに乗って生きられます。心が安定しているから、揺れ動かないのです。ですから、家族で教えに触れることで

す。教えが共有できれば、支え合う家族となれます。思いが重なり、その家の心の道が確実につながっていきます。

そのような人は、品性も高く、人徳があるものです。希望の光が通って、心が安定しています。神魂を心の支えに、正道を生きています。ですから、周りの人の心を感化していきます。

品性の高い得徳のかなう生き方が、人生を磨いていきます。家族で教えに生きて、和のある家庭、そして揺るぎない我が家の心の道を築いていきましょう。